



今月のみどころ

今月の表紙

緑ヶ丘保育園の保育士は毎朝、美咲野小学校近くの歩道や公園の清掃活動をしています。地域の人たちが住みやすいようにと14年前から続けています。この活動が県緑化環境美化功労者表彰受賞につながりました(P15参照)。

- P2 熊本県議会議員一般選挙(4月9日)
- P3 物価高騰対策(高校生などの家族にギフトカード5,000円分/事業者に追加交付)
- P4~P7 熊本縣市町村広報担当による合同特集

Public relations
OZU TOWN



町で行った献血会場では赤い法被を着た大津町商工会女性部の部員が受け付けの手伝いをしています。

clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人

広報 おおつ 2023 3

発行・編集 ■大津町・総合政策課
〒869-1292 熊本県熊本地部大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報のおおつは環境に配慮して再生紙と植物インクを使っています。

UD FONT
易やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



大津町が 盛り上がるために できることをする

たかき きみこ
高木 希三子さん(室)

大津町商工会女性部(以下、女性部)は年に一度、町で行われる献血の運営ボランティアを20年以上続けている。令和元年には日本赤十字社から厚生労働大臣感謝状を受賞。今回は、同部副部長の高木さんに地域に寄り添う商工業者の思いにクローズアップする。

大津町で製造業を営む高木さんは大津町商工会女性部に入ってから約7年。「元々先代が女性部に入っていたこともあって自然と所属していました」と。大津町商工会女性部の部員は、大津町商工会の会員で、町内で商いを営む経営者やその家族、従業員で組織されている。女性部の活動は献血運営ボランティア以外にも、奇数月に行う再生資源集団回収や国道57号線沿い中学通りなどの花植え、若草学園にクリスマスプレゼントを渡すなど地域のためにできることを盛んに行っている。

献血時のボランティアでは、献血を希望する人の受け付けや献血広報車による広報活動などを行っている。「輸血を必要とされる人が多くいらっしゃる中、社会にとって献血は必要なものです。地域で活動している団体として献血運動に参加し、地域に社会に貢献できればと思っています」と話す高木さん。

「女性部に入って初めて、運営側で献血の手伝いができることを知りました。私たちの役割は窓口対応がメインなので、献血に来る人が安心して献血を受けてもらえるよう、笑顔で対応することを心掛けています。初めて献血をする人が気軽に立ち寄れる窓口にしていき、今後も献血運動の推進をしていきたいです」と笑顔で話す高木さん。今後も女性部は地域の活気を守るために伝統の継続とチャレンジの両方を踏まえる。

こころの声

▼献血を推進する人・献血の運営をサポートする人の話を聞いて、献血の必要性を改めて実感しました。大学生の時、初めて献血に参加し、毎年献血に行くようにしています。ありがたいことに事前の診断で引っ掛かることなくスムーズに献血ができています。一緒に行った友人は十分に食事を摂っていなかったもので、献血ができないことがありました。献血の前はしっかり食事や水分補給をしていくことが大事だと学びました。皆さんの一歩が誰かの命につながるかもしれません。参加できる人は、ぜひ町の献血バスへの協力をお願いします(献血バスの日程3月14日)。(SU)

